2023年度リサーチ・コンソーシアム記念事業
ポスターセッション

発表タイトル	豊中市における地域づくりと健康づくりに関する調査研究 ――社会的処方の視点をふまえて――

要旨等：

孤独・孤立が社会課題になるなかで、「社会的処方（social prescribing）」と呼ばれる取組みが注目されている。本調査研究では、豊中市における地域づくりと一体となった健康づくりの一層の推進に向け、社会的処方の考え方や実践から何が活かせるのかを考察した。

まず、「社会的処方」概念の整理を行った。現在、同概念は特に地域福祉分野の理念・制度との関連が未整理といえる。そこで、先行研究の検討をとおして、社会的処方を狭義・広義に整理した。そのうえで、基礎自治体においては広義を第一義とし、地域共生社会の文脈に位置づけることの重要性を指摘した。地域共生社会の推進において社会的処方の考え方は、エビデンス志向、医療分野との積極的な連携可能性の点で有益であるといえる。

では、地域共生社会の推進に、社会的処方のエッセンスをどのように落とし込めるのか。そこで次に、事例分析を行った。社会的処方を実践する先行事例を複数検討した結果、事例の要点は、①健康をテーマにした分野横断的な取組み、②暮らしの延長上にある定常的な場でのつながりづくり、③インセンティブやナッジの実装、④健康の視点をもった専門人材の関わり、といった点に整理できた。

また、社会的処方の実践への展開を考えるため、庁内職員を対象とする連続セミナーを開催し、多部署・多機関連携の在り方について検討した。その結果、連携促進に向けたポイントとして、①部署内での目標の共有、②関連部署が情報・認識を共有する機会・場、③連携のための人材育成、といった点が抽出された。

以上のような検討をふまえ、最後に、豊中市における地域づくりと一体となった健康づくりの一層の推進に向け、社会的処方の考え方や実践をどう活かせるのか、その展開を試案した。その結果、①包括的支援体制の充実、②健康×まちづくり活動のプラットフォームづくり、③医療機関・関係者との情報連携、④市職員の庁外活動支援、⑤健康データを活用した効果検証を提案した。

PR内容（企業・団体・官公庁の会員のみ）：とよなか都市創造研究所は、中長期的な視点に立った都市における調査、研究などを行う豊中市の自治体シンクタンクです。

担当：とよなか都市創造研究所　研究員　比嘉　康則